

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達サポートいっぽ		
○保護者評価実施期間	2024年11月18日		～ 2024年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74	(回答者数) 65
○従業者評価実施期間	2024年11月18日		～ 2024年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動を中心に保健体育教諭免許や国家資格を有する職員による運動プログラムを提供していること。 ・自分の体を守るための身のこなし、体の使い方を身につけるプログラムを提供していること。 ・解剖、生理学、運動学、運動発達学に精通した職員によるプログラムを提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動発達の順序性や方向性を理解し、年齢や個人の発達段階を配慮したプログラムを検討している。 ・器械運動(マット、鉄棒)、跳躍運動、模倣運動、ボール操作運動、危機回避運動(受け身)に取り組んでいる。 ・小児に起こりやすい怪我の発生状況や危険な体の使い方について研修を行い、安全な体の使い方を学んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の知識を深めていく。 ・期分けを行い、狙いを定め細分化してプログラムを検討する。 ・個別に評価しながら全体のプログラムの組み立てる。 ・子どもたちの興味、好きなことも取り入れながらプログラムの検討する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園や学校における集団活動に適應できるように、小集団活動を中心に日常生活動作や社会スキルを身につけられるように支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性に配慮しながらプログラムを提供している。 ・集団だけでなく個別で過ごせる環境づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加し、職員のスキルアップを図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、心理、保育、教育分野の国家資格や免許を有する職員が在籍していること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理士による個別・集団の心理プログラムを行っている。 ・SSTやビジョントレーニングを取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理士としてペアレントトレーニングなど新しいことを学び、相談や家族会で還元したい。 ・専門性を高め、常に新たな学びを得られるように資格取得を支援し、研修参加の機会を提供している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> こどもが自己選択できるような支援の工夫が必要に感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムを充実させようとするあまりに子どもたちの思いや考えを取入れることが欠けていたかもしれない。自由な発想や選択ができる仕組み作りを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で意志決定ができるような仕組み作りを検討し、個別支援計画の作成段階からアセスメントやモニタリングで本人の思いや意見を聴取できるように努める。
2	<ul style="list-style-type: none"> ご家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)、家族等の参加できる研修の機会や情報提供等が課題に感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ご家族のニーズの把握、聞き取りが本人支援に偏っていたかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を決め、一年を通して計画的に行うことが必要であり、それを可能にする体制を整えること。 ・支援者がペアレントトレーニングの研修を積極的に受け研鑽を積む。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士で交流する機会を提供できていないため課題に感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ご家族のニーズの把握、聞き取りが本人支援に偏っていたかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を決め、一年を通して計画的に行うことが必要であり、それを可能にする体制を整えること。 ・親子活動を通じた交流するや不安なことを支援者に相談したり、日頃の悩みを保護者同士で共感し合えるような機会をつくる。